

スタッフが展示したかったアレコレ

「うちの玉手箱 （一の巻）」展

川島織物文化館 2021 年 10 月 8 日（金）～ 2022 年 8 月 31 日（水）



株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：木村弘一）は、本社に併設の川島織物文化館（京都市左京区）で、「うちの玉手箱 （一の巻）」展を 10 月 8 日（金）より開催します。

川島織物文化館は、極小の織物まで含めると約 16 万点の収蔵品を有しています。その中からテーマに沿って年間約 100～200 点を展示・公開していますが、日の目を見ていない作品が殆どです。そこで今回は、著名作家の作品・見ていて楽しいちょっと珍しいコレクションなど、お披露目の機会は無かったけれど、スタッフが是非ご紹介したい作品を集めた展示を企画しました。ちょっとワガママな企画ですが、織物フリークがひとりの美術ファンとして選んだイチオシ作品群です。愛あふれる作品解説と共に楽しみ下さい。

開催概要

タイトル：うちの玉手箱 （一の巻）

会 期：2021 年 10 月 8 日（金）～ 2022 年 8 月 31 日（水）

場 所：川島織物文化館

（京都市左京区静海市原町 265）

休 館 日：土・日・祝祭日、夏期、年末年始、

川島織物セルコン休業日

入 館 料：無料

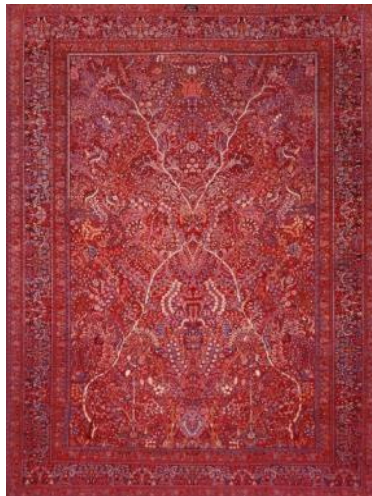
※ ご見学は完全事前予約制です。

※ 新型コロナウイルス感染防止のための対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

詳細は ホームページ をご確認ください。

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

■主な展示作品



上段左：綴織壁掛原画「白孔雀」 守住勇魚（もりづみいさな） 1901（明治 34）年

上段中：ペルシャ絨毯「FINE KASHIMIR」 イラン 20 世紀初頭

上段右：レースつけ襟（近藤コレクション） ベルギー / フィリピン 制作年不詳

下段左：壁画「私たちの誓」より画稿「糸」 伊藤清永（いとうきよなが） 1964（昭和 39）年

下段中：玩具「みつこしおもちゃ會」 1913（大正 2）年

下段右：「ヴィーナスの首」 向井良吉（むかいりょうきち） 1973（昭和 48）年

■川島織物文化館 概要■

1889（明治 22）年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。

館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のこだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192

京都市左京区静海市原町 265

株式会社川島織物セルコン内

TEL：075-741-4120

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期・年末年始（川島織物セルコン休業日）

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制

見学希望日の前日 16 時までに電話でお申込み下さい。

（※月曜日ご来館希望の場合は前週金曜日）

ご予約専用 TEL：075-741-4323

ホームページ：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

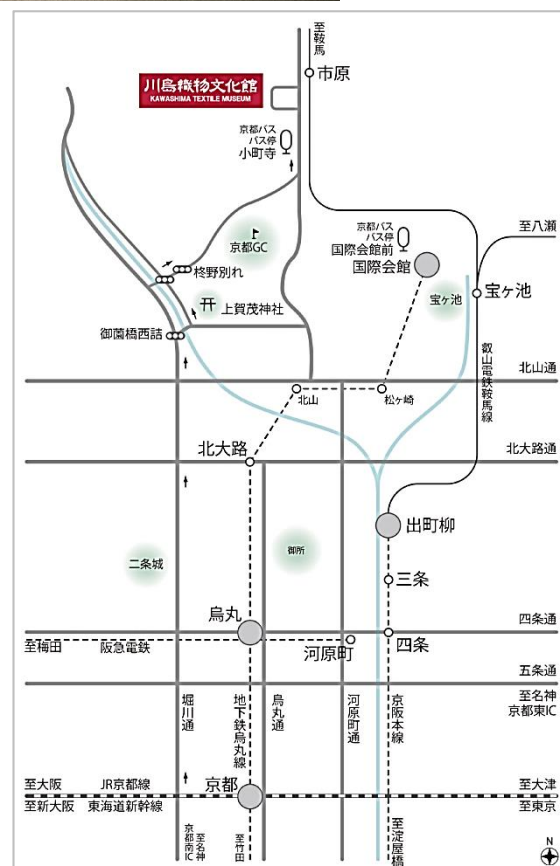
アクセス：●地下鉄「国際会館」駅より

・京都バス（50/52 系統）「小町寺」下車 徒歩約 5 分

・タクシー 約 10 分

●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約 7 分

●京都駅より タクシーで約 40 分



■川島織物文化館の運営について

川島織物文化館は、新型コロナウイルス感染防止のため、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、咳エチケットの実施などの対策を講じた上で、運営をしています。ご不便をおかけいたしますが、ご来館のお客様にもご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。